

南会津町の空き店舗を活用した賑わい創出と食による地域興し計画

牧田ゼミ : A2201003 遠藤友梨香 A2201013 近藤彩加
A2201017 佐藤歩美 A2201025 本田瑞季

研究概要

南会津町旧田島地区の商店街は過疎化や少子高齢化により活気がなく、空き店舗も多い。空き店舗を活用した商店街コミュニティの核である『まちなか楽座』を拠点として、特定の商店の特徴や商品情報等をディスプレイデザインして情報発信することを計画し、実施する。

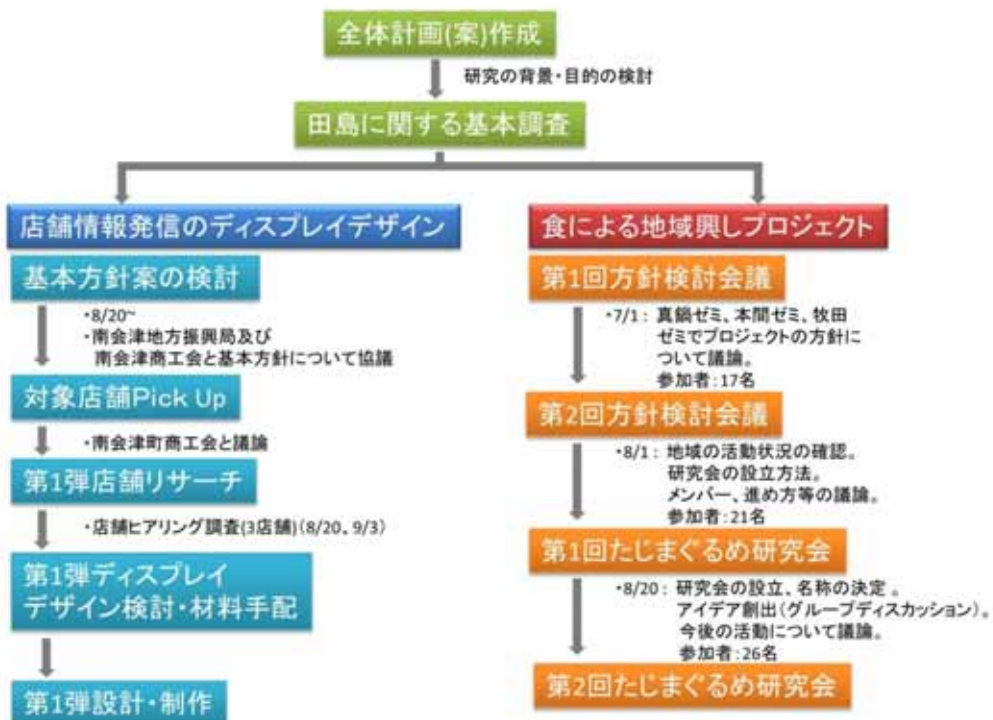
また、本学食物栄養学科の真鍋ゼミ・本間ゼミと協同して、地域食材や特産品を活かした料理メニュー等の開発による賑わい創出計画を行う。ここでは研究会の設立、進行計画、商品化に付随する販促支援ツール(マーク・ロゴ・パッケージ等)などについて企画・立案を担当する。

研究背景・目的

旧田島地区は、観光客の往来は多いが通過地点であるため訪問者は少ない。観光客の誘客として道の駅の運営などには力が入れているが、商店街は人口減少や高齢化に伴い空き店舗も増加し、衰退傾向にある。さらに、東日本大震災による直接的な被害は少なかったものの、原発事故の影響で宿泊キャンセルなどが相次いでおり、風評被害が深刻化している状態である。そこで、空き店舗を活用して商店街への誘引効果を増進させる店舗情報を発信するディスプレイデザインと、消費者の興味を惹く地域ブランドをつくることで商店街の賑わい創出を試行することを目的とする。

研究方法

研究方法は下図のように行う。店舗情報発信のディスプレイデザインについては、対象とする店舗のピックアップをするとともにヒアリング調査を行い、特色ある店舗情報をまとめてディスプレイデザインをし、まちなか楽座に実際に施工・展示する。食による地域興しプロジェクトでは関係者による方針検討会議を開催し、進め方、メンバーの召集方法、方向性のスケジュール等の検討等を行い、地元の参加者とともに“たじまぐるめ研究会”を発足する。数回にわたる研究会議で南会津の地域食材を活かした料理メニューの方向性や商品化の検討を行う。





空き店舗を活用した販わい創出 まちなか楽座の活用

■店舗情報の発信のディスプレイデザイン

商店街の空き店舗を活用したコミュニティの核である『まちなか楽座』に設置。普段はチラシやパンフレット、リーフレットなどを置いている場所にディスプレイを設置した。

ディスプレイ全体の名称は「MISE-Miseru」(いってみテン! : 吹き出し処理)とする。「MISE-Miseru」には、店の内容を紹介する“見せる”の意と、店の魅力を“魅せる”の意の二つの意味が込められている。「いってみテン!」には“店に行ってみてきたよ!”, “店に行ってみてよ!”の意味が込められている。

ディスプレイには対象商店の特徴やまちなか楽座に来た人にしかわからない『得だ値情報』を掲載している。また、得だ値情報発信コーナーを設けており、特定商店だけでなく他店舗の得だ値情報も掲載できるようにして誘引効果を期待した。

また、このような活動をしているということ商店街及び地域の方々認知してもらうために、地域の消費者向けと商店街の店舗向けの二種類のチラシを作成した。



消費者向けチラシ



店舗向けチラシ

◎対象商店のディスプレイについて

- ・パネル(基本情報や店主紹介、得だ値情報)
- ・ハニカムボックス内に店の情報(写真)をはめ込む
- ・店員のシルエット及び写真
- ・季節装飾

対象商店には、ディスプレイデザインに用いたハニカムボックス(図4)を店内に展示してもらった。

ディスプレイデザインは2回に渡り実施し、第1弾は蕎麦屋さん(10/10~12/9)、第2弾は電気屋さん(12/10~)の紹介を行った。

◎他店舗得だ値情報の得だ値情報テンプレートについて

- ・ No.(店舗番号)
- ・ 店舗基本情報(店名・店主・創業・電話・営業日/営業時間・休業日等)
- ・ 取扱商品・メニュー、イチオシ商品
- ・ 店舗の写真(ファサード・店内の様子・商品等)
- ・ 店主・店員等のシルエット写真
- ・ 店舗のユニーク情報
- ・ 得だ値サービスの詳細・キーワード

このテンプレートNo.は前年度牧田ゼミ制作のたじまっぷとの連携を図っている。たじまっぷは、現在まちなか楽座内に展示されており、商店の位置の確認ができる。



図1 ディスプレイ例



図2 ディスプレイ全体

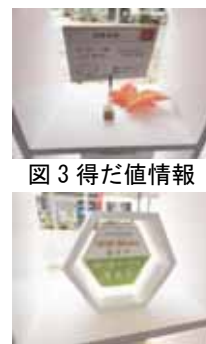


図3 得だ値情報



図5 店舗得だ値情報

ディスプレイ実施後において、対象店舗にディスプレイデザインに対する意見、効果、改善点などについてヒアリングを行った。

食による地域興しプロジェクト

■方針検討会議

第1回方針検討会議(7/1)では食による地域興しプロジェクトの進め方を議論し、飲食店用のメニュー開発や地場産品を活用した食品などの商品開発などを含めた議論を行う場を設置することにした。真鍋ゼミからは麺に的を絞るB級グルメや南会津の地域食材を使用したスイーツやドリンクなどの食品開発の提案があり、本間ゼミからは地域食材を活かしたソースやスイーツ、ジャージャー麺や坦々麺などのレシピ開発の意見が挙げられた。

第2回方針検討会議(8/1)では南会津地方振興局、南会津町役場、南会津町商工会、食のブランドづくりに関心のある企業組合とんぼのめ、本学の各ゼミで食品開発の進め方について協議し、「たじまぐるめ創作研究会(仮称)」を発足することが決定された。商工会女性部が中心となった企業組合とんぼのめからこれまでどのような食品開発をしてきたか、本学の各ゼミにこれからどのような食品開発が可能かなどの話し合いを行い、食品開発に対する知識や課題などの共通認識化を図った。

■たじまぐるめ研究会

第1回たじまぐるめ研究会(8/20)では会議の進め方、知的財産権について話し合い、とんぼのめがこれまで取り組んできた食品開発についての発表及び真鍋ゼミ、本間ゼミの考案した「アスパラコロッケ(トマト入り)」と「ジャージャー丼」のアイデアを提案した。各取り組みについて理解を深め、商品化イメージやアイデア等についてグループディスカッションを行った。

ディスカッションでは、グループごとに発表し、後日全体をまとめた。主な項目は主食系(20品目)、おかず系(26品目)、デザート系(33品目)にまとめられ、主食系ではアスパラ麺のクリームパスタ等、おかず系では地鶏の十念味噌焼き、デザート系ではアスパラ・トマトのロールケーキ等79品目に及んだ。

第2回たじまぐるめ研究会(10/2)では、本学の食物栄養学科真鍋ゼミ・本間ゼミによる「アスパラコ

ロッケ(トマト入り)」と「ジャージャー丼」の提案及び試食のプレゼンテーションを行った。試食後、全体で試作品について意見交換を行い、今後の改善に向けた課題を出し合った。さらに研究を進め本学の大学祭で試作品の販売を行いアンケート調査をしていくことを決定。また、第1回たじまぐるめ研究会で出されたアイデアについて商品化の可能性などに関して議論を行った。

第3回たじまぐるめ研究会(11/2)では真鍋ゼミ及び本間ゼミの大学祭でのコロッケ・ジャージャー丼の販売状況の報告、研究会による商品化・方向性について検討した。ジャージャー丼・アスパラコロッケの試作品を田島料理飲食業組合が研究する方向となった。

第4回たじまぐるめ研究会(12/6)では、田島料理飲食業組合有志による試作品(18品)のプレゼンテーションを実施。試食後に試作品に対する意見交換を行った。

今後は第5回、第6回の研究会を予定している。現時点では開発する料理メニューが絞られなかったため、販売促進ツールを検討するに至らなかった。



グループディスカッションの様子(第1回)



アスパラコロッケ(上)
ジャージャー丼(下)(第2回)



研究会の様子(第3回)



試食会の様子(第4回)

考察

■店舗情報発信のディスプレイデザイン

まちなか楽座を基点とする商店情報と得だ値情報の発信は、店舗固有の特徴を発信する新たな手段として有効と考える。また、誘引情報として他店舗の得だ値情報を発信することで効果が期待されるしくみと考える。

今回の提案は新聞報道や会津鉄道のホームページに掲載される等、一定の宣伝効果はあったといえる。しかし、ディスプレイに対する認知度がまだ低いため、まちなか楽座への来客は少ない。より沢山の消費者に知ってもらうためには、チラシなどの媒体に加えて商工会や町の広報誌、ホームページ、商店の広告など多種多様な広報活動が必要である。

また、商店街は通り自体の通行量が少ないことから、通りを歩いてもらう工夫をすることも商店街の賑わい創出に繋がると考える。

■食による地域興しプロジェクト

これまでも観光公社、商工会女性部、各商店などで地域食材を使った食品や料理メニューはいくつか開発・販売がされていた。地域の有志を含んだたじまぐるめ研究会を発足することで、料理メニューや食品開発による地域興しの意識がより向上し、重要性を認識できたことは有意義であったと言える。しかし、アイデアが多数挙げられたものの、的を絞るには至らなかったことは残念であった。

今後も継続して研究会を存続させ議論することを願いたい。研究会の最終回には、商品を仮定して販売促進のためのツールを提案したいと考えている。